

問谷宏志（もんだにひろし）さん（敷地在住）

■暮らしを楽しむ



草刈り中偶然見つけたカタクリの花に魅せられ、清綱の古民家に定住し二十余年。趣味の山登り、森林インストラクターの資格を活かし、地元の小学校と連携した檜「いの森」キャンプ、「品の滝」、馬洗川をフィールドにした、川の探検などの指導や、希望者を募り、子どもたちの自然体験活動を主宰する他、雨天時も活動可能な「ボルダリング施設を」自宅納屋に設置し、体験希望者に活動の場を提供しています。子ども達には、私自身が子ども時代に体験してきたように、自然との触れ合いを通して、家遊びやゲームでは得ることのできない感性や危険の察知、創造力、コミュニケーション力を育んでほしいと思います。そのためには、私自身が好奇心を持ち、生き生きと楽しむことをモットーにしています。

■今の生活は

妻や二人の子は、広島市へ住み、二地域居住という生活スタイルです。私は、地元企業に勤める傍ら、「ばせんがわ自然塾」・「ばせんがわジム（ボルダリング施設）」を運営し、NPO吉舎シイクハンドの会での活動を続けています。定住を考えていたのですが、空き家物件について相談があり、住んでいた家が丁度希望される方の条件に合うことから売却し、単身住まいの身軽さもあって、地元の方に敷地の古民家を紹介していただき移り住みました。改修も容易ではありませんが「住むことで家を守る」空き家の利活用も一つの方法ではないかと考えています。

■これからも

自然塾を通じて感じていることは、最近の子どもは、外遊びが減り、自然とかわる体験も少なくなっています。吉舎町の豊かな自然、生物の多様性を誇る山や川は地域の魅力であり宝だと思います。これからもお世話になった清綱の家に新たに移住される方と協力し、ジムの運営などは続けていきたいと思っています。将来、収集したバイクのパーツや空き家で不要になった民具などのガレージセールを夢見しています。住む場所にはこだわりのあり、自然が豊かで、敷地が広く倉庫付きの古民家を探しています。そのような空き家があれば是非ご紹介いただければと思います。

今回登場いただいた問谷宏志さんは、三原市から清綱に移住され、現在は敷地にお住いです。自称「川ガキ」、世代で海や川での遊びの中で得た危険から身を守る術やワクワクドキドキするような好奇心、コミュニケーション能力など、「生きる力」の育成に、子どもたちの伴走者として走り続けておられることに共感しました。車関係の大手企業、世羅町のモトクロス場での仕事経験を活かしたバイク収集など、自分の好きなこと、今できることをアクティブに行動に移される生活スタイルに魅力を感じました。清綱の家には、新しく移住して来られる方も決まり、是非吉舎町で自然塾を通しての子ども育成や、次の夢の実現に向けて頑張っていただきたいと思います。

記事レポート 三次市集落支援員（吉舎地区） 徳永春喜